

長い黒髪が一本、落ちている。

おかしい。自分は短く刈り上げて久しい。この部屋には自分しかない。毎日綺麗に掃除している。

それなのに、落ちている。

一筋の長い黒髪。

昨日は味噌汁の中に浮かんで、まるで蛇のように身をくねらせていた。

今日は枕の上に一本、恥じらうかのように身を横たえていた。

半年前は、どうだったろう。

黒髪を指でつまみ、そっと口に含んだ。

女の匂いがした。

前歯でゆっくりとそれを噛みしめる。

女の白い脂が広がった。

ああ、そうだ、こんな匂いだった。こんな味わいだった。

今日も女は髪を一筋、自分の部屋にポタリと落とす。

今度の女は、いつ殺した女だっただろうか。

どんな指をしていただろうか。

どんな目玉をしていたのだろうか。

長い黒髪は今日も明日も一筋、自分の前に落ちていく。

看守には見えない、自分にしか見えない、美しい一筋の黒髪。